だっこするよ

平成 30 年 11 月

社会福祉法人茂原高師保育園
北区立赤羽台保育園
〒115 - 0053　北区赤羽台 1－4－11－105
TEL　3900－0189　FAX　3907－8690
園　長　　奥戸　昌子

親子で心を通わせるひとときを　絵本やお話しのおすすめ

こどもたちは絵本が大好きです。ひよこさんたちも大好きな保育者へ何度も繰り返し「読んで～」とお気に入りの絵本を持ってきてくれます。幼児組ではわらべ歌遊びの最後に昔話など小さなお話しをします。じ～と私の目を見て真剣に聴いています。とても可愛くて愛おしい瞬間です。

クラスでも絵本や紙芝居を読んでもらっているときも、小さくまとまって、まるで小さな乗合いバスに乗っているようです。ページがめくられる度、こどもたちの視線が右に左に動きます。静かな部屋から「魔法の乗合いバス」は、物語りの旅に出るのです。ちょっとため息が聞こえたり、緊張した空気になったり、笑い声が聞こえたり、みんなで一つの物語の世界に入って遊ぶのです。好奇心がムクムクと生まれ動いている時間だなあ～とそっと見守ります。

10 年以上前に児童文学家の松居直氏の講演で感動した言葉です。「あなたは言葉を誰からもらいましたか？」と問われて「だいたいがお母さんですよね。お母さんの声を聞くことが大事なんですよ。」と「絵本は大人がこどもに読んでやる本です。」と活字になっている言葉には、いちばん大切なものが隠れていて、それは語り手の息遣いです。この声と息遣いに、言葉の命が秘められているんです。声の言葉、口から語られる言葉からは語り手の気持ちが伝わってきます。生き生きとした言葉は聴き手の心に響いて楽しみや歓び、時に悲しみ恐れの気持ちをかきたてます。それは言葉の力として崇高なものです。そして、絵本を読んでやる意味は、こどもの言葉を豊かにする動きがありますが、もっともっと大切なことは、読み手と聴き手が「共に居る」ということです。こどもは、特にお父さん、お母さんと一緒に居ることが歓びです。しかもその時に、お父さんやお母さんの口から楽しい物語が語られれば、こどもは最高に幸せです。一人で読めるようになっても大好きなお父さんお母さんと共に、豊かな言葉に包まれて、人としての関わりのかけがえのない経験をしてこそ、温かい豊かな心を持った人に育つんです。」と優しい言葉にメモを取りながら涙がこぼれてきました。「読めることも書けることも急がせないで欲しい、先ずは聴くことが大切。一緒にいて生の声を沢山聴かせてあげて欲しい。」と繰り返されました。その講演を思い出すたびに温かい気持ちになり、その感動は何年経っても熱いままです。園の貸し出し図書の充実も図って参ります。

さてさてスマホ社会…どう付き合っていきましょうか。生活の便利さとこどもの長時間接触は分けて考えたいですね。哺乳類のヒトは、声を聴き、肌を触れ合わせて、心も身体もすっぽりと抱っこです。抱っこは大人もこどもも互いにオキシトニンのハッピーホルモンが出るそうです。乳幼児期の愛着関係がその後の生涯に渡る幸福感につながります。幸福感は生きる意欲になります。そして、秋の夜長にご家族でオセロやトランプ、人生ゲームなどもおススメです。4,5 歳さんは、なかなか手強いですよ。勝負して下さいね。

今月は、乳児組の保育参観月間です。春の参観から更に自立して生活する様子や友達との関わり合う様子を見に来て下さい。一人ひとりが自分の課題に向かって成長し、自分らしさが豊かに溢れています。また幼児組は、年間通して保育参加を受け付けております。お申し込み下さい。写真は赤羽北のぞみ保育園との交流会の様子です